

## 幹本申2号「東北新幹線で発生した列車分離の原因究明対策の実施を求める緊急申し入れ」の交渉を行う！ パート②

(パート1より)

- 《組合》 E6系が前方、E5系が後方だった場合はどうか？他の併合編成パターンについても衝突しないと言えるのか？制動距離についてシミュレーションは行ったのか？
- 《会社》 計算はしていないが、理論上は後方編成が早く止まる仕組みになっている。絶対とは言えないので列車分離を起こさないための原因究明と対策を確実にやっていく。
- 《組合》 恒久対策はいつまでにどのように実施するのか？
- 《会社》 空気管閉SWについては、改修・撤去も含めて検討している。また、分併以外においてもフェールアウト側に働くシステムがないか洗い出しを進めているところだ。

**※JR東労組としては、原因が判明していない中での併合運転継続は問題があると主張！**

- 《組合》 今回の列車分離に対して、発生後のマスコミ報道や記者会見、その他の情報発信によりお客さまや乗務員、駅係員といった現場の社員と会社との間に事象に対する認識の隔たりができていていると感じているが、その点はどうか？
- 《会社》 発生原因等について入念に調査し、精査したうえで9月26日の記者会見、社員への情報発信となったが、そこまでの間にお客さまや社員の不安を和らげたり、会社として事象への認識を伝える努力が不足していたという課題意識はある。改めて、今回の事象は止まったからそれでよしとされるものではない。「あってはならない事象」との認識は変わらない。
- 《組合》 お客さまから新幹線の安全や併合運転の継続について不安に思うご意見を現場で多数頂いたり、社員自身が不安を持ちつつ業務を遂行していた現実がある。
- 《会社》 お客さまや現場で様々な声が上がっていることは承知しているし、会社でも意見を吸い上げる努力はしている。速やかな情報収集と発信、共有についての課題は今後も継続して検討していく。

**※今回の事象に対し、お客さまや現場と会社との間に認識の乖離があることを訴える！**

## 第2項 今回の事象以降の職場の声を把握し、発生している課題を明らかにすると共に職場の不安等を解消すること

- 《組合》 事象発生当日、一部マスコミで「13時に運転再開」との報道がされた。現場には一切周知されていない情報であり、お客さまから問い合わせが殺到して混乱した。
- 《会社》 そのような報道があったことは承知している。新幹線統括本部としても遺憾に思う。混乱を防ぐための情報統制は行っていた。報道の経緯までは把握していない。

(パート3へ)